



■ 小満（しょうまん）号（2012年5月21日発行）

「ぼくの木」と小満。

マンション暮らしは、わずかな土（地べた）もありません。小さな楽しみはベランダです。鉢植えのブルーベリーは花が終わり緑の実が見えます。可憐です。イングリッシュ・ラベンダーの蕾が開きました。そんな小さな場所にも、「小満」の季節がやってきました。

どうして、季節は間違ふことなくやってくるのだろう。いつも不思議に思っ
て眺めます。

庭はないけれど、「ぼくの木」と呼んでいる木が、二本あります。一本は若
もののケヤキ。もう一本は、いじめに遭っているような坂の上のプラタナス。
二本（二人？）はぼくの友だちなのです。通るときは握手の代わりに、手のひ
らで幹を軽く叩いて「お早う、元気かい？」などと声かけます。ひたひた、と
幹は冷たい感触の返事を、でも嬉しそうにします。

ほんの三つ前の節気「清明」のころは一枚の葉もなく、二本とも小枝はばっ
さり切り落され丸裸で寒そうでした。しかし、いまケヤキは別人のよう。みず
みずしい緑を着て満足げに見えます。いや、確かに葉のそよぎやたたずまいに
喜びと自信が感じられます。友だちになってから、それが分かるようになりま
した。（プラタナス君はまだちょっといじけていますが）

ところで「小満」て、おかしな名前ですね。ちょっと調べてみました。

小満とは立春から数えて8番目の節気、太陽暦の5月21日ごろから15日間
の季節のことです。意味を知ると「な一るほど」と昔の人の偉さに驚きます。

秋に蒔（ま）いた麦などが成長して穂がつくころとなり、ほっとひと安心。「少し満足する」ので「小満」。人は、意味を知ると納得し、少し賢くなります。

田畑を耕して生活の糧を得ていた時代、農作物収穫の有無は人の生死にかかわる大問題だったのですね。

節気（暦）は暮らしにとって不可欠の、重要情報だったことが分かります。

そして、勝田理事長がよく言うように日本という国は「祈り」と「感謝」で暮らしてきたのだと、節気を考えると気づきます。

◎“ともいき暦”に親しみましょう。五感で自然のうつろいを味わいましょう。

◎あなたも、「私の木」を探してはいかが？ 歩くのが楽しくなると思います。

◎おまけ情報：①西洋占星術では、**小満**を双児宮（ふたご座）の始まりとする。

②沖縄では、次の節気と合わせた**小満**芒種（すーまんぼーすー）という語が梅雨の意味で使われる。とのことでした。

文：朝倉 勇（NPO PLANT A TREE PLANT LOVE 理事）

■事務局からのお知らせ

◎5月21日は、「金環日食」。当日の朝は、曇り空、時々太陽が顔を出しますが、金環日食が見られるかどうか微妙な空模様です。

しかし、金環日食が始まる直前に雲の切れ間から太陽が顔を出し、すばらしい天体ショーが観測できました。東京は快晴ではなかったのですが、かえって雲間に見える金環日食は、肉眼でも（いけないことですが・・・）しっかり見え、太陽につきが吸い込まれてリングが完成した瞬間、多くの観察者たちから完成と拍手が沸き起こりました。その後の5分間は、みんな息を呑むように声一つなく、厳かな雰囲気の中、宇宙の不思議さに見入っていました。NPO PTPLの映像スタッフも、都内で撮影しています。編集した映像を皆さんにもご案内できるのを楽しみにお待ちしております。

◎5月13日（日）、以前よりご案内していました「東京二十四節気ウオーク・第3回 立夏」が開催されました。当日は、五月晴れにふさわしく、心地よい風とやわらかい日差しが感じられる最高の日和で、滝野川公園を出発し、飛鳥山公園から王子駅、荒川自然公園、三ノ輪駅を抜け、ゴールの東盛公園までのおよそ10Kmのコースを300名以上の参加者が思い思いのペースでウォーキングを楽しんでいました。

今回のテーマは「バラ」。特に、都電王子駅から三ノ輪駅までの間、都電沿線に沿って歩くコースでは、地域住民の方々の協力によって沿線にバラが植えられていて、地域住民の街づくりに対する心づくしが感じられる風景が楽しめました。次回は6月24日（日）、「アジサイ」をテーマに開催します。詳細ならびに参加希望は事務局にお気軽にお問い合わせください。



◎皆さまのご意見、ご感想など何でも結構ですので、事務局にお寄せください。お待ちしております。

■お問い合わせは

NPO PLANT A TREE PLANT LOVE 事務局 担当：佐藤

〒108-0073 東京都港区三田 2-21-11 パークハイム三田 103 号

電話：03-6436-0335 FAX：03-6436-0337 Email：info@plantatree.gr.jp